

第1回意見交換会の振り返り

第1回新スポーツセンター基本構想に係る意見交換会での主な意見

○コンセプトの更新

- ・幅広い区民が楽しめることに共感する。

★事務局説明の「普遍的な内容であり変更の必要がない」に関しては異議なし。

○基本方針の更新

- ・基本方針④について、まちづくりへの貢献の背景としてマンション住民と町会との交流に関する課題認識があるので意識していただきたい。
- ・利用者の希望を取り入れ、災害にも配慮した施設づくりに同意する。

★事務局説明の「普遍的な内容であり変更の必要がない」に関しては異議なし。

○役割・導入機能の更新（DX等の観点を踏まえた更新）

- ・DXなどの最新技術の活用は大変魅力を感じた。
- ・AIカメラは、個人情報面で懸念がないか。現在は大会の際に写真撮影を禁止しており、実際に運用する際は利用者への配慮が必要となる。
- ・AIカメラは、大会の映像をリアルタイムで配信することで、メインアリーナの観客席数を補完するような使い方もできる。
- ・現在のスポーツセンターは備蓄倉庫が地下にあり動線が悪い。また、災害関連死のことを考慮すると、避難所は快適な空間である必要がある。基本方針⑤の「安心・安全・快適」を踏まえ、新スポーツセンターは避難所としての課題も解消するものとしてほしい。
- ・民間施設に引けを取らない運営や未来の子供たちのスポーツ育成を考えた使いやすい施設づくりに共感する。

★事務局説明の追記内容（案）に関しては異議なし。

○役割・導入機能の更新（建設地の決定を踏まえた更新）

- ・川沿いの立地という観点ではカヌーなども面白いが、水質の問題で厳しさがあるか。
- ・水質や臭気の問題があり、川沿いの立地を活かした機能の整備は難しさがある。例えば、川端緑道などの施設周辺エリアもスポーツの観点で活用するような検討も必要ではないか。
- ・メイン競技場はコート3面を実現していただきたい。現在のコート2面では限られた時間での大会運営となり、ウォーミングアップの時間が取れないことによるケガや参加希望のチーム数に対応しきれない状況がある。
- ・隣接する公共施設との連携の可能性を含め検討を行なうことは、区民サービスの向上や避難所としての機能向上に資することに加えて、平面規模の拡大で得られる効果が非常に大きいと考えている。ぜひ、一体での整備を進めてほしい。

★事務局説明の追記内容（案）に関しては異議なし。

○その他の意見

- ・ちよくるのサイクルポートを設置してほしい。
- ・麴町エリアや富士見エリアからアクセスする際の利便性の観点で、かぎぐるまの運行ルートを検討してほしい。
- ・スポーツをしない区民にも足を運んでもらえるような魅力的な施設としてほしい。
- ・ゴルフの機能が屋外に設置されていることで音の問題があり、現施設の課題である。

主な意見の反映・検討

○コンセプトの更新

- ・基本構想（素案）の内容からの更新は不要

○基本方針の更新

- ・基本構想（素案）の内容からの更新は不要

○役割・導入機能の更新（D X等の観点を踏まえた更新）

- ・最新技術やオンライン技術を活用した利用者利便向上の観点を更新
- ・スポーツセンター機能だけでなく、避難所機能としての現施設の課題を解決する観点を更新

○役割・導入機能の更新（建設地の決定を踏まえた更新）

- ・建設地が川沿いに立地している観点を更新
- ・建設地に隣接する公共施設との連携可能性の観点を更新



基本構想へ反映

○役割・導入機能の更新（D X等の観点を踏まえた更新）

- ・A I カメラの運用にあたっては個人情報等の観点を懸念がないか。
- ・避難所空間と備蓄倉庫の動線について改善が必要
- ・避難所空間は災害関連死の発生を防ぐために快適な空間とすることが必要

○役割・導入機能の更新（建設地の決定を踏まえた更新）

- ・主競技場は大会開催の充実や安全性確保の観点、避難所機能の向上の観点を平面規模を拡大することが必要
- ・日本橋川の水質や臭気の問題があるため川沿いの立地を活かした機能は慎重な検討が必要
- ・川端緑道などの施設周辺エリアもスポーツの観点を活用することを計画してはどうか。

○その他の意見

- ・ちよくるのサイクルポート設置が必要
- ・かぎぐるまの運行ルートを検討してほしい。
- ・ゴルフ機能は屋内に配置する検討が必要
- ・スポーツをしない区民にも足を運んでもらえるような魅力的な施設としてほしい。



基本計画や運営計画で検討

新スポーツセンター基本構想の 構成・内容について

新スポーツセンター基本構想（素案）の構成

目次		主な内容
1. 基本構想（素案）の背景と位置づけ		—
1)	経緯	平成26年度から平成29年度までの経緯を記載
2)	位置づけ	基本構想（素案）の位置づけについて、各種関連計画を記載
2. 現状と課題		—
1)	社会動向	スポーツを取り巻く社会動向について記載
2)	千代田区の特徴	千代田区の特徴として地形、土地利用、人口の3点を記載
3)	区民スポーツの実施状況	千代田区民のスポーツの実施状況について、区民世論調査の結果を記載
4)	スポーツ施設の現況	千代田区内の官民スポーツ施設の分布を記載
5)	スポーツ施策の現況	千代田区のスポーツ施策を記載
6)	現スポーツセンターの現況	現スポーツセンターの施設概要を記載
7)	課題の整理	1) から6) までから課題を整理し記載
3. 基本構想（素案）		—
1)	コンセプト	新スポーツセンターのコンセプトを記載
2)	基本方針	新スポーツセンターの基本方針（1）から（5）までを記載
3)	導入機能	新スポーツセンターの役割・導入機能について21の事項を記載
4)	導入施設	新スポーツセンターの導入施設を機能ごとに分類して記載
5)	導入施設の内容	新スポーツセンターの導入施設の内容について、現況を踏まえた方向性を記載
6)	利活用プログラム	新スポーツセンターの利活用プログラムについて、（1）他施設、各団体との連携、（2）利用促進に向けた取り組み、（3）安全管理の観点で方向性を記載
4. 今後の課題		新スポーツセンターの建設に向けた課題を記載

新スポーツセンター基本構想の構成（案）

目次		主な内容
第1部 新スポーツセンター整備の背景		
1	はじめに	基本構想（素案）を継承しながら、社会情勢の変化を踏まえた更新を行うことを記載
2	検討経緯	基本構想（素案）の策定以降の経緯を追記
3	新スポーツセンターの建設地	建設地に関する基本情報や歴史的背景、まちづくりの動向などを記載
4	基本構想の位置付け	基本構想の位置付けをイメージ図にて記載
第2部 新スポーツセンター基本構想		
第1 新スポーツセンターの基本的な考え方		
1	コンセプト	新スポーツセンターのコンセプトを改めて記載
2	基本方針	新スポーツセンターの基本方針（1）から（5）までを改めて記載
3	導入機能	新スポーツセンターの役割・導入機能について、追記・更新した26の事項を記載
第2 近隣公共施設との連携		
1	東京都千代田合同庁舎との連携	建設地に隣接する東京都千代田合同庁舎との連携の可能性を記載
2	敷地の活用イメージ	敷地の活用方法をイメージ図にて記載
3	建物ボリュームの検討	建築可能な建物ボリュームをイメージ図にて記載し、建築面積、延べ床面積、建物高さなどの検討結果を記載
第3 新スポーツセンター整備の事業方式		
1	事業方式	一般的な事業方式として「従来型方式」、「DBO方式」、「PFI方式」を紹介して記載
2	各事業方式の概要と特徴	各事業方式の概要と特徴を記載
3	事業方式による発注単位のイメージ	各事業方式における、基本設計から運營業務までの発注単位をイメージ図にて記載
4	事業方式の比較	各事業方式の概要や特徴を表形式で改めて記載
第4	新スポーツセンター整備のスケジュール	新スポーツセンターの整備に向けた想定スケジュールを記載
第5	基本計画の策定に向けて	基本計画の策定に向けた取組事項を記載

構成の比較イメージ

継承

平成30年度：新スポーツセンター基本構想（素案）

目次

1. 基本構想（素案）の背景と位置づけ

- 1) 経緯
- 2) 位置づけ

2. 現状と課題

- 1) 社会動向
- 2) 千代田区の特徴
- 3) 区民スポーツの実施状況
- 4) スポーツ施設の現況
- 5) スポーツ施策の現況
- 6) 現スポーツセンターの現況
- 7) 課題の整理

第1回意見交換会
 ▶DXの観点
 ▶避難所・災害対応の観点
 ▶建設地の決定の観点 等

反映

3. 基本構想（素案）

- 1) コンセプト
- 2) 基本方針
- 3) 導入機能
- 4) 導入施設
- 5) 導入施設の内容
- 6) 利活用プログラム

4. 今後の課題

令和7年度以降に詳細検討

令和6年度：新スポーツセンター基本構想

目次

第1部 新スポーツセンター整備の背景

- 1 はじめに
- 2 検討経緯
- 3 新スポーツセンターの建設地
- 4 基本構想の位置付け

更新

第2部 新スポーツセンター基本構想

第1 新スポーツセンターの基本的な考え方

- 1 コンセプト
- 2 基本方針
- 3 導入機能

更新

第2 近隣公共施設との連携

- 1 東京都千代田合同庁舎との連携
- 2 敷地の活用イメージ
- 3 建物ボリュームの検討

新規

第3 新スポーツセンター整備の事業方式

- 1 事業方式
- 2 各事業方式の概要と特徴
- 3 事業方式による発注単位のイメージ
- 4 事業方式の比較

第4 新スポーツセンター整備のスケジュール

第5 基本計画の策定に向けて

新スポーツセンター基本構想の内容（案）

更新

目次

第1部 新スポーツセンター整備の背景

- 1 はじめに
- 2 検討経緯
- 3 新スポーツセンターの建設地
- 4 基本構想の位置付け

第2部 新スポーツセンター基本構想

第1 新スポーツセンターの基本的な考え方

- 1 コンセプト
- 2 基本方針
- 3 導入機能

第2 近隣公共施設との連携

- 1 東京都千代田合同庁舎との連携
- 2 敷地の活用イメージ
- 3 建物ボリュームの検討

第3 新スポーツセンター整備の事業方式

- 1 事業方式
- 2 各事業方式の概要と特徴
- 3 事業方式による発注単位のイメージ
- 4 事業方式の比較

第4 新スポーツセンター整備のスケジュール

第5 基本計画の策定に向けて

<はじめに>

- 現スポーツセンターは、昭和47年12月にオープンした。築年数50年以上が経過し、老朽化やユニバーサルデザイン対応などの課題を抱えていることを記載
- これまでの経緯として平成30年度に基本構想を取りまとめ、令和3年度に建設地を現地建替えとすることを決定したことを記載
- 平成30年度に取りまとめた基本構想（素案）を継承しながら、DXの観点や新型コロナウイルス感染症拡大後の生活様式の変化などの社会情勢の変化を踏まえた更新を行い、基本構想を策定することを記載
- スポーツセンターの整備に向けて、導入機能や規模の詳細、フロア配置、事業方式などを基本計画にて定めることを記載
- 基本構想（素案）にて整理しているスポーツの定義を改めて記載

～スポーツの定義について～

新スポーツセンター基本構想では、ルールに基づいて勝敗や記録を競うものから、健康を目的に行われる運動、更には遊びや楽しみを目的とした身体活動まで、その全てを幅広く含むものを「スポーツ」として定義しています。

〈スポーツの範囲（例）〉

- ・ルールに基づいて勝敗や記録を競うもの（野球やサッカー等の競技スポーツ）
- ・健康を目的に行われる運動（体操・ストレッチ、ウォーキング、ランニングなど）
- ・遊びや楽しみを目的とした身体活動（レクリエーション活動、かけっこなど）

<検討経緯>

- 令和3年度：建設地（現地建替え）の決定
- 令和4年度：利用者アンケート、指定管理者ヒアリングの実施
- 令和5年度：川沿いの立地を踏まえた調査検討
- 令和6年度：意見交換会の実施

新スポーツセンター基本構想の内容（案）

更新

目次

第1部 新スポーツセンター整備の背景

- 1 はじめに
- 2 検討経緯
- 3 新スポーツセンターの建設地
- 4 基本構想の位置付け

第2部 新スポーツセンター基本構想

第1 新スポーツセンターの基本的な考え方

- 1 コンセプト
- 2 基本方針
- 3 導入機能

第2 近隣公共施設との連携

- 1 東京都千代田合同庁舎との連携
- 2 敷地の活用イメージ
- 3 建物ボリュームの検討

第3 新スポーツセンター整備の事業方式

- 1 事業方式
- 2 各事業方式の概要と特徴
- 3 事業方式による発注単位のイメージ
- 4 事業方式の比較

第4 新スポーツセンター整備のスケジュール

第5 基本計画の策定に向けて

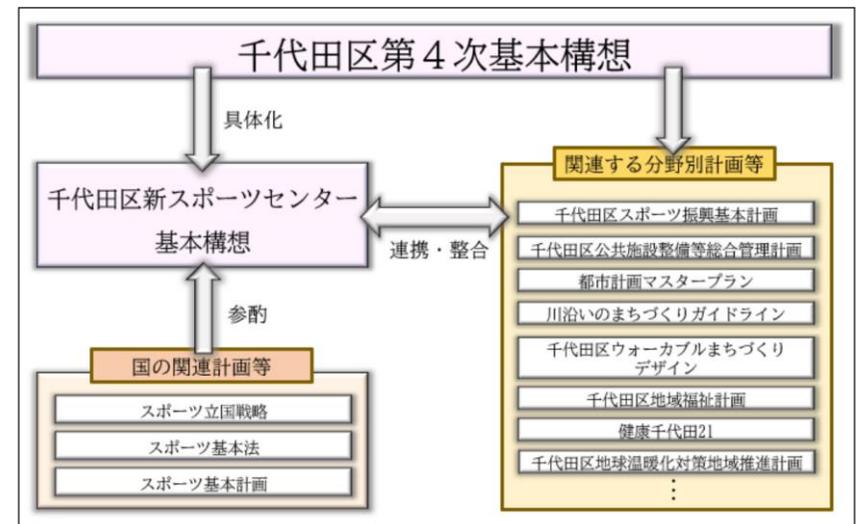


<新スポーツセンターの建設地>

- 新スポーツセンターの建設地を現施設所在地とすることを記載
- 建設地の立地・特徴を記載
 - 周辺環境として、出世不動尊や佐竹稲荷神社、神田駅周辺の商店街や小川町のスポーツ用品店街がある。
 - 新スポーツセンターの建設地が立地する内神田地区の歴史として、江戸期には鎌倉河岸が立地し、その後、区立の神竜小学校が開校した。
- まちづくりの動向を記載
 - 都市計画マスタープランにおける位置付けを記載
 - 川沿いのまちづくりガイドラインにおける位置付けを記載
- 建設地の法規制や地区計画の概要を記載
- 「水辺を魅力ある都市空間に再生する条例」を参考掲載

<基本構想の位置付け>

- 区の行政計画の最上位に位置付けられる「千代田区第4次基本構想」やその他関連する分野別計画との関係を整理したイメージ図を記載



新スポーツセンター基本構想の内容（案）

更新

目次

第1部 新スポーツセンター整備の背景

- 1 はじめに
- 2 検討経緯
- 3 新スポーツセンターの建設地
- 4 基本構想の位置付け

第2部 新スポーツセンター基本構想

第1 新スポーツセンターの基本的な考え方

- 1 コンセプト
- 2 基本方針
- 3 導入機能

第2 近隣公共施設との連携

- 1 東京都千代田合同庁舎との連携
- 2 敷地の活用イメージ
- 3 建物ボリュームの検討

第3 新スポーツセンター整備の事業方式

- 1 事業方式
- 2 各事業方式の概要と特徴
- 3 事業方式による発注単位のイメージ
- 4 事業方式の比較

第4 新スポーツセンター整備のスケジュール

第5 基本計画の策定に向けて



<コンセプト>

○新スポーツセンターのコンセプトを改めて記載

- ・千代田区に住み、働き、学ぶすべての人が
- ・気軽にスポーツを楽しむ
- ・生涯を通じて心と体とコミュニティを育むことができる
- ・スポーツのシンボルとなる中核施設

<基本方針>

○新スポーツセンターの基本方針①～⑤を改めて記載

- 基本方針①：誰もが気軽に心身の健康づくりに取り組める、細やかで魅力的なサービスを提供します。
- 基本方針②：区民の多様なニーズに応えるために、官と民の施設・サービスの連携を図ります。
- 基本方針③：生涯にわたるスポーツの振興と競技者の育成に対応した区のスポーツの拠点施設として整備します。
- 基本方針④：まちづくりや地球環境の向上に貢献します。
- 基本方針⑤：安全・安心・快適で、使いやすい施設を整備します。

<導入機能>

○DXや新型コロナウイルス感染症拡大後の生活様式の変化を踏まえた要素を反映する。

- ・最新技術を活用したプログラムの提供、最新技術を活用した健康づくりサービスの提供（追加）
- ・最新技術を活用した競技指導や競技力の向上（追加）
- ・オンライン技術を活用した遠隔指導の検討、オンライン技術を活用した運動機会の拡大（追加）
- ・日本橋川に顔を向けた施設、川沿いの立地を活かした施設（追加）

○建設地の決定を踏まえた要素を反映する。

- ・大地震等災害時の避難所機能等の防災機能と空間の拡充（更新）
- ・感染症予防の観点から考慮した施設（追加）

新スポーツセンター基本構想の内容（案）

新規

目次

第1部 新スポーツセンター整備の背景

- 1 はじめに
- 2 検討経緯
- 3 新スポーツセンターの建設地
- 4 基本構想の位置付け

第2部 新スポーツセンター基本構想

第1 新スポーツセンターの基本的な考え方

- 1 コンセプト
- 2 基本方針
- 3 導入機能

第2 近隣公共施設との連携

- 1 東京都千代田合同庁舎との連携
- 2 敷地の活用イメージ
- 3 建物ボリュームの検討

第3 新スポーツセンター整備の事業方式

- 1 事業方式
- 2 各事業方式の概要と特徴
- 3 事業方式による発注単位のイメージ
- 4 事業方式の比較

第4 新スポーツセンター整備のスケジュール

第5 基本計画の策定に向けて

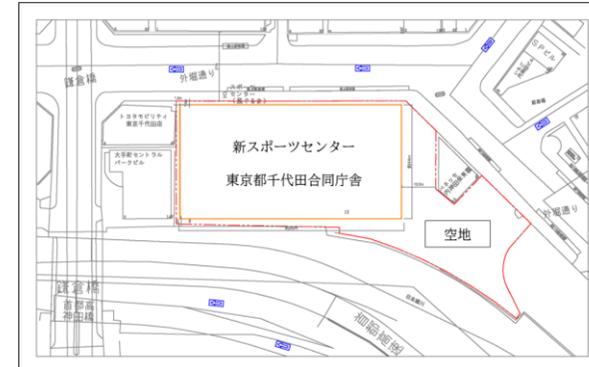


<東京都千代田合同庁舎との連携>

- 新スポーツセンターの建設地に隣接する東京都千代田合同庁舎との連携に関する検討を行ったことを記載
- 東京都との連携により期待される効果を記載
 - ▶ スケールメリットを活かした効果的な施設整備による区民サービスの向上
 - ▶ 敷地内に空地を創出することによる地域のにぎわいやまちづくりへの貢献

<敷地の活用イメージ>

- 敷地の活用イメージ図を掲載



<建物ボリュームの検討>

- 建築可能な建物ボリュームをイメージ図にて掲載



新スポーツセンター基本構想の内容（案）

新規

目次

第1部 新スポーツセンター整備の背景

- 1 はじめに
- 2 検討経緯
- 3 新スポーツセンターの建設地
- 4 基本構想の位置付け

第2部 新スポーツセンター基本構想

第1 新スポーツセンターの基本的な考え方

- 1 コンセプト
- 2 基本方針
- 3 導入機能

第2 近隣公共施設との連携

- 1 東京都千代田合同庁舎との連携
- 2 敷地の活用イメージ
- 3 建物ボリュームの検討

第3 新スポーツセンター整備の事業方式

- 1 事業方式
- 2 各事業方式の概要と特徴
- 3 事業方式による発注単位のイメージ
- 4 事業方式の比較

第4 新スポーツセンター整備のスケジュール

第5 基本計画の策定に向けて



<事業方式>

- 公共施設整備の手法として、設計と施工を個別発注する従来型方式のほか、PPP・PFIと呼ばれる民間参画の方法があることを紹介
- 一般的な事業方式の分類として「従来型方式」、「DBO方式」、「PFI方式」を紹介

<各事業方式の概要と特徴>

- 各事業方式の概要と特徴を記載
 - ▶従来型方式は基本設計・実施設計・施工の3業務を個別に発注するため「個別発注」と呼ばれるのに対して、DBO方式とPFI方式は3業務を一括で発注するため「一括発注」と呼ばれる。
 - ▶従来型方式は各業務の仕様を詳細に定めて発注することから「仕様発注」と呼ばれるのに対して、DBO方式とPFI方式は施設の要求性能を定めて発注することから「性能発注」と呼ばれる。
 - ▶DBO方式とPFI方式は、いずれも「一括発注・性能発注」となるが、資金調達手法が異なり、DBO方式は公共による資金調達、PFI方式は民間による資金調達となる。
 - ▶DBO方式とPFI方式は、施設整備に向けた調達が1回で済むことから発注から施設整備までのスケジュールの短縮が期待されるが、発注図書の作成等に一定の期間を要するとされている。
 - ▶DBO方式とPFI方式は、民間の創意工夫による費用縮減効果が期待できるとされている。

<事業方式による発注単位のイメージ>

- 各事業方式における、基本設計から運營業務までの発注単位をイメージ図にて記載

<事業方式の比較>

- 各事業方式の概要や特徴を表形式に整理して記載

意見交換①

○基本構想の構成・内容について

意見交換②

○自由意見交換